

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 4	1	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↘ 42	50	ヘルパンギーナ	↗ 15	8
咽頭結膜熱	↗ 9	8	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 60	70
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↗ 79	57	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 226	158	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 5	10
水痘	↘ 44	54	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 10	26	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 12	7	マイコプラズマ肺炎	↘ 6	10
突発性発しん	↗ 45	35	クラミジア肺炎	→ 0	0

**報告が多い感染症**

- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

- 感染性胃腸炎は、報告数 226件(前週報告数 158件)と増加。地区別では、山鹿、有明、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の34件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 79件(前週報告数 57件)と増加。地区別では、菊池、熊本、天草に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の16件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 60件(前週報告数 70件)と減少。地区別では、菊池、水俣、有明に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の13件を最多に、10～14歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	12	5	37	50	15	1	4	19	0	1	20		4				4
山鹿保健所	0	0	0	0	26	5	0	0	0	0	0	0	*	*				
菊池保健所	1	11	0	17	11	10	1	0	6	0	2	15		1				
阿蘇保健所	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	*	*				1
御船保健所	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	2	2	5	27	1	0	1	1	0	0	3						
水俣保健所	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	6	*	*				
人吉保健所	2	1	0	4	12	2	0	0	2	0	0	3	*	*				1
有明保健所	1	2	1	2	59	5	0	0	6	0	0	9						
宇城保健所	0	3	0	5	23	2	0	1	4	0	0	0						
天草保健所	0	9	1	9	10	4	8	4	6	0	11	4						
計	4	42	9	79	226	44	10	12	45	0	15	60	0	5	0	0	6	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	4				1											2						
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	42	4	14	19	3	2																
咽頭結膜熱	9		1	4	2				1			1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	79			2	2	6	9	16	10	4	13	8	7		2							
感染性胃腸炎	226	5	17	34	24	26	15	19	14	15	7	5	28	6	11							
水痘	44	2	2	14	6	3	7	6	3	1												
手足口病	10		2	5	2	1																
伝染性紅斑	12		1			1	1	2		2	2	1	1		1							
突発性発しん	45	4	18	20	2	1																
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	15			4	4	3	2			2												
流行性耳下腺炎	60		1	2	8	6	12	13	8	3	3	2	2									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	5					1										1	1		1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	6		1	3	2																	
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域  
ありませんでした。

**感染性胃腸炎**

今週の感染性胃腸炎の報告数は先週より32件増え、226件でした。例年は10月半ば頃から報告数が増加しますが、今年は1ヶ月ほど遅れて増加の兆しが見え始めました。乳児から大人まで幅広い年齢層からの報告ですが、3歳以下の乳幼児が全体の半数近くを占めています。感染性胃腸炎の原因には様々なウイルス、細菌などがあります。症状は、原因となる病原体や患者の状態により異なりますが、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。子供の場合、元気がなかったり、不機嫌な状態が続く時はすぐに受診してください。家庭では脱水を起こさないよう、水分補給に努めましょう。これからの季節はウイルスを原因とするものが増加します。中でも特にノロウイルスの感染力はきわめて強く、医療機関や社会福祉施設、学校など集団生活の場で流行を起こすことがあります。家庭においても注意が必要です。調理や食事の前、トイレの後などの手洗いをしっかり行い、予防に努めましょう。


